

令和3年度 第二回 国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会

日時：令和3年11月9日（火）

15:30～17:30

場所：国営海の中道海浜公園事務所

議事次第

1. 開会

2. 議題

1) 前回協議会での議題、意見等に関する取組状況

①上半期の海の中道海浜公園の利用者数の報告・・・・・・・・・・資料1

②「うみなかたび」の取組状況・・・・・・・・・・資料2

③電動キックボードの実証の取組状況・・・・・・・・・・資料3

④ワーケーションの取組状況・・・・・・・・・・資料4

2) 各主体における今年度の取組状況・・・・・・・・・・資料5

3. 閉会

以上

○配付資料

配席図、参加者名簿

委員名簿

資料1 上半期の海の中道海浜公園の利用者数の報告

資料2 「うみなかたび」の取組状況

資料3 電動キックボード 第2回実証実験 概要報告

資料4 ワケーションの取組状況

資料5 4つの将来像の取組 フォローアップ様式

参考資料1 令和3年度 第二回 国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会 議事要旨

参考資料2 マリンワールド海の中道資料

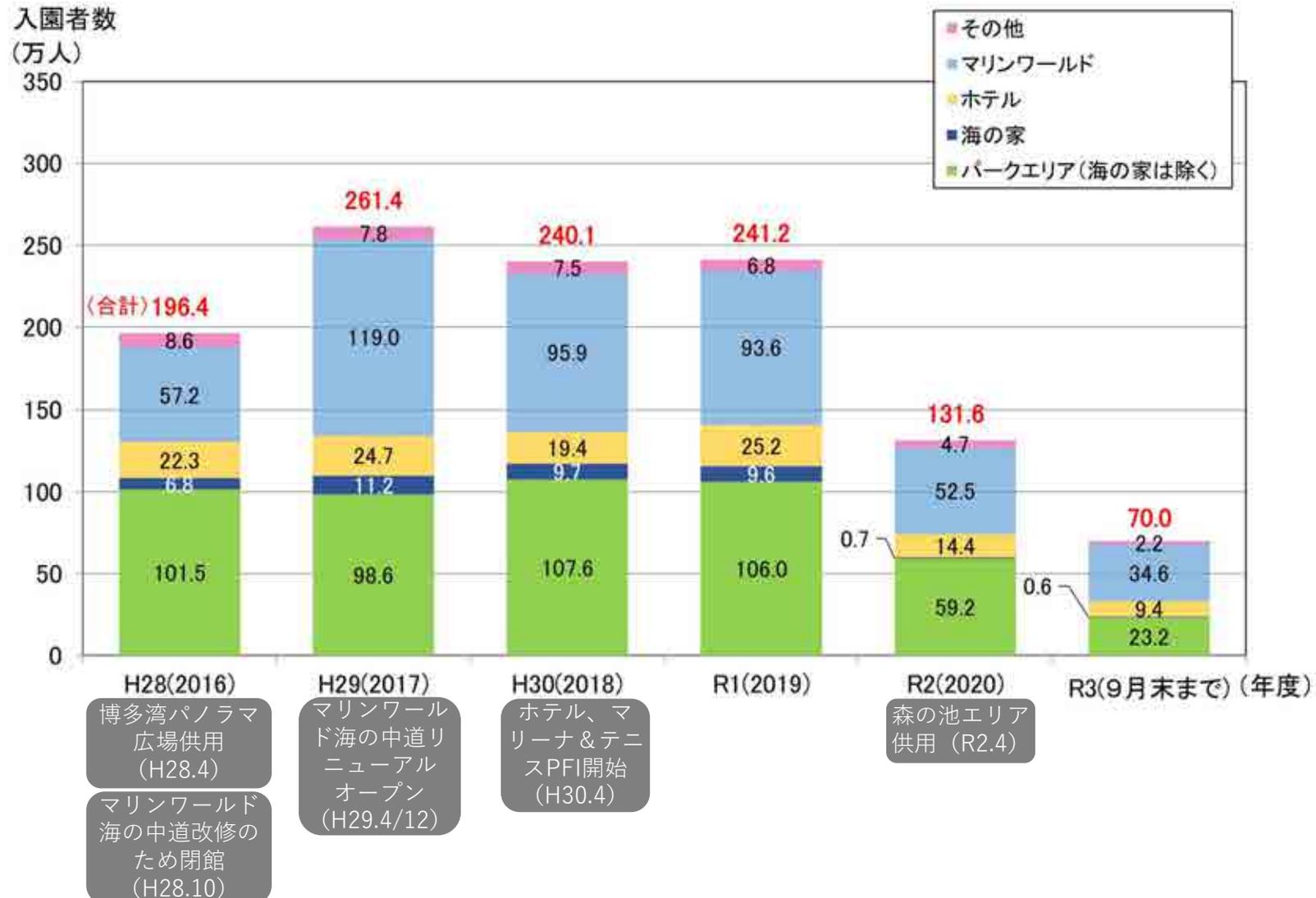
参考資料3 青少年海の家資料

参考資料4 うみなかビジョン2030の実現に向けた今後の計画

上半期の海の中道海浜公園の 利用者数の報告

直近5年間の入園者数の推移

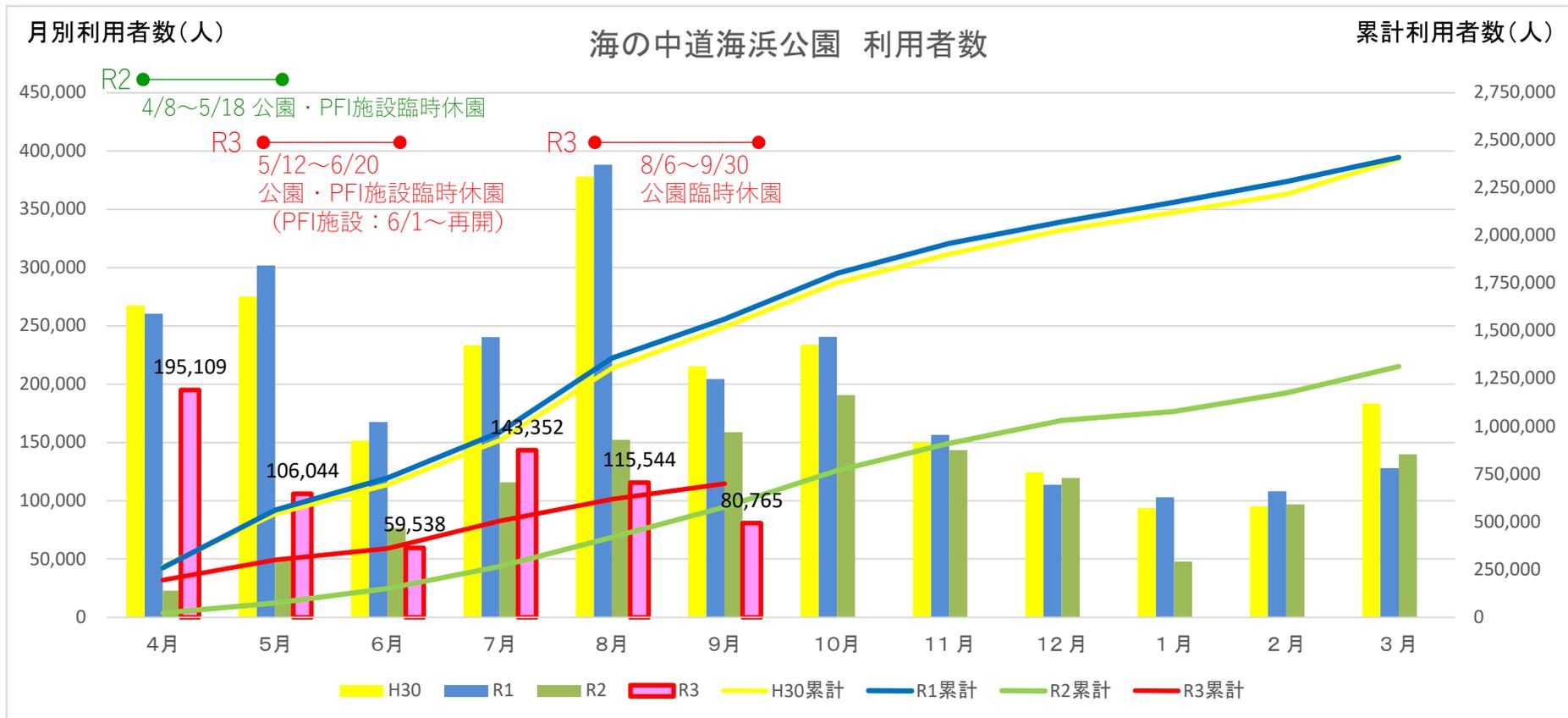
- 平成28年度から令和1年度までは、200～250万人前後で推移していたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う閉園等により132万人に半減。
- 令和3年度は、9月末までに約70万人が入園。



平成30年度～令和3年9月末までの月別利用者数

○令和2年度の公園の利用者数は約132万人（昨年の約55%）
 ○令和3年度は、4月は例年に近い入園者数となったが、
 5月12日から6月20日まで福岡県が緊急事態宣言の対象となったため臨時休園。
 7月は去年度より入園者数が増えたが、
 8月6日から9月30日まで福岡県が緊急事態宣言の対象となったため臨時休園。

R2年度の利用者数内訳
 ●パークエリア：60万人（対前年比56%）
 ●マリンワールド：52万人（対前年比56%）
 ●レイガンズ：14万人（対前年比57%）



「うみなかたび」の取組状況



海の中道・西戸崎・志賀島
観光情報の発信

海の中道管理センター

(1) 「うみなかたび」について

- R3.4月に海の中道・西戸崎・志賀島の観光情報を一体的に発信するポータルサイト開設
- “海の中道エリア”・“西戸崎・志賀島エリア” 毎に、「観る・遊ぶ」「食べる・買う」「泊まる」等のカテゴリ別に情報を発信（合計約65カ所）



1 ポータルサイト「うみなかたび」

(2) アクセス解析状況

- 4月のTOPページビュー数は約3,300件
- 5～6月は、臨時休園（5.12～6.20）もあり、約3400～約2200件
- 再開園した7月は、プール営業中止もあったものの、上半期最高の約4100件を記録
（夏季のレジャー利用に向けたリサーチと推察）
- 8～9月は、再びの臨時休園（8.6～9.30）もあり、約2600件で推移
- 再開園した10月は、春季に近いページビューの推移を記録

(参考) ページビュー数の推移

	今年度	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10 [※]	R3.11	年度累計
No.1	TOPページビュー数	3,343	3,402	2,286	4,161	2,673	2,590	2,550		21,005
No.2	総ページビュー数	7,033	6,516	6,373	12,407	8,397	8,160	7,281		56,167
No.3	ユニークユーザー数	2,371	2,940	2,652	3,726	3,050	2,662	2,481		19,882
No.4	セッション数	2,801	2,942	2,346	4,315	3,475	3,054	2,884		21,817

※10/22現在

1 ポータルサイト「うみなかたび」

(3) 人気ページ状況 (4~9月)

- トップページを除き、最も多いのは「海中エリア（観る・遊ぶ）」が約3400件
- 次いで「全体のおすすめスポット」が約2700件
- 続いて「海中エリア（食べる・買う）」が約1600件「季節のおすすめ情報」が約1400件
- 「西戸崎・志賀島エリア」の（観る・遊ぶ／食べる・買う）情報は、約1100~1000件

(参考) 人気ページランキングTOP10 (4~9月)

	ページ		ページ ビュー数	ページ別 訪問数
1	/	トップページ	18,455	13,592
2	/spot-list/watch-and-play/uminaka	観る・遊ぶ>海中エリア	3,431	2,301
3	/recommended	おすすめスポット	2,702	1,899
4	/spot-list/eat-and-buy/uminaka	食べる・買う>海中エリア	1,659	1,137
5	/pickup	季節のおすすめ情報	1,460	1,146
6	/spot-list/watch-and-play/saitozaki-shikanoshima	観る・遊ぶ>西戸崎・志賀島エリア	1,173	875
7	/spot-list/eat-and-buy/saitozaki-shikanoshima	食べる・買う>西戸崎・志賀島エリア	1,038	628
8	/archives/spot/118	観る・遊ぶ>海中エリア>海の中道海浜公園	930	817
9	/archives/340	季節のおすすめ情報>志賀島-海の中道サイクルツーリズム	880	730
10	/archives/652	季節のおすすめ情報>夢幻黄金魚展	794	701

2 広報の取組状況

(1) 夏のチラシ掲載状況

■コロナ禍によるプール中止も踏まえ、広い園内及び地域周遊の魅力とツールを発信強化

■特に、セグウェイ・電動キックボード・サイクリング等の情報をビジュアル化し掲載



2 広報の取組状況

(2) 秋のチラシ掲載状況

- 更なる認知向上として、秋チラシのタイトル化と大幅な紙面拡大を図り掲載内容を強化
- タイプ別（アクティブ・まったり・よくばり）に周辺地域のめぐり方を提案



3 イベント等の取組状況

(1) 開園40周年特別企画



- 『うみなかとわたしと旅』をテーマに特設ページも設置
- “海中エリア～西戸崎～志賀島”のエリアを対象として「①思い出エピソード」と「②思い出写真」を新たに募集



①思い出エピソード募集

募集期間：9/1～10/20 ※応募数 79件



- ▶ 特別賞として「福岡オープントップバス×うみなかたび」特別運行を贈呈
(32組・1組4名様までを予定)

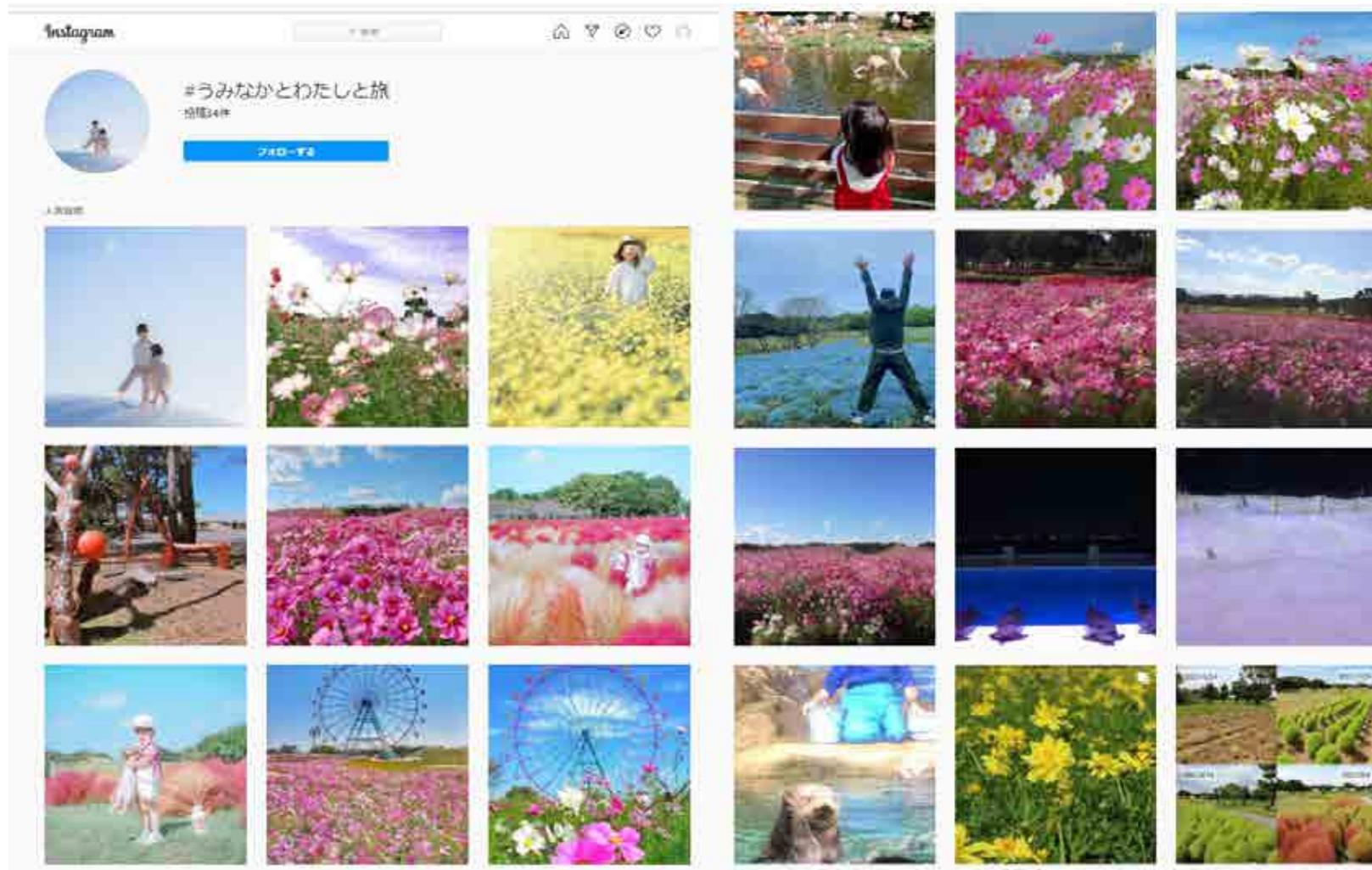
- 運行日時：11/13(土) ※予備日：11/14(日)
①10:00～ ②11:30～
③14:00～ ④15:30～

- コース：海の中道海浜公園～志賀島一周(約60分)

3 イベント等の取組状況

②思い出写真（SNSフォトコンテスト形式）

募集期間：9/1～11/30 ※10/22現在 349件



4 今後の取組み（下半期）

（1）ポータルサイト

- アクセス数のさらなる向上

- ⇒ エリアブランディングを意識したSNS発信強化 等

（2）広報

- 「冬のうみなかたび」のチラシ制作

- ⇒ 冬の風物詩「うみなかキャンドルナイト」と合わせた広域広報

（3）イベント等

- 冬ならではの楽しみを魅力的に紹介

- ⇒ ホットグルメやワークショップスポットの案内

- ⇒ 様々なタイプの自転車解説やモビリティの紹介など

電動キックボード 第2回実証実験

概要報告

海の中道管理センター

■実証実験のステップ

ステップ	期間	エリア	備考
第1回	2020/11/7～29日（日）の 土日祝のみ	海の中道駅口～動物の森 （約1.5 k mの区間）	
第2回	2021/3/20～5/11の全日	海の中道駅口～海の松原 ～光と風の広場～森の池 （約5 k m）	今回 の 報告
第3回	①2021/7/22～8/5の全日 ②2021/10/1～11/28の全日 ※8/6～9/30：臨時休園	園内全域のサイクリングコース （約12 k m）	現在、 実施中

■第2回実証実験の概要

【目的】

- 既存のサイクリング・園内バス(季節運行)に加え、新たな移動手段として「電動キックボード」に着目し、当公園への導入可能性や課題を検証
- 公園の楽しみ方に付加価値を生むパークモビリティとしての活用の可能性を「有効性」・「安全性」の面で検討
- 第1回で確認された「有効性」と「安全性」についてエリア拡大し実証



■ 内容

主催	海の中道海浜公園管理センター、株式会社mobby ride
実施日時	2021年3月20日(土)～5月23日(日) 合計65日間 9:30貸出～16:00返却 ※5/12～23休園(実働日数:53日間)
台数	20台
料金	1時間1,500円 3時間3,000円 超過料金あり
料金の支払い方法	・ レンタサイクル券売機にてチケットを購入
主な条件	<ul style="list-style-type: none"> ・ LINEアプリがインストールされたカメラ付きスマートフォンを所持していること ・ 対象年齢：13歳以上推奨 ・ 身長：135cm以上 ・ 最高時速15km ・ ヘルメット着用は任意
コース	海中口～D地区（潮見台・海の松原）～B地区（カモ池・森の池）
運用方法	海中口前に貸し出し拠点を設置。 利用者は受付で手続きを行い、車体を借り受けたのち、指定ルートを自由に走行し、時間内に貸し出し拠点に車体を返却する

■ コース

エリア設定状況



車体に搭載されたGPSの位置情報を元に走行可能エリアを設定。
 エリアオーバー後一定時間が経過するとアクセル機能をオフにすることができる



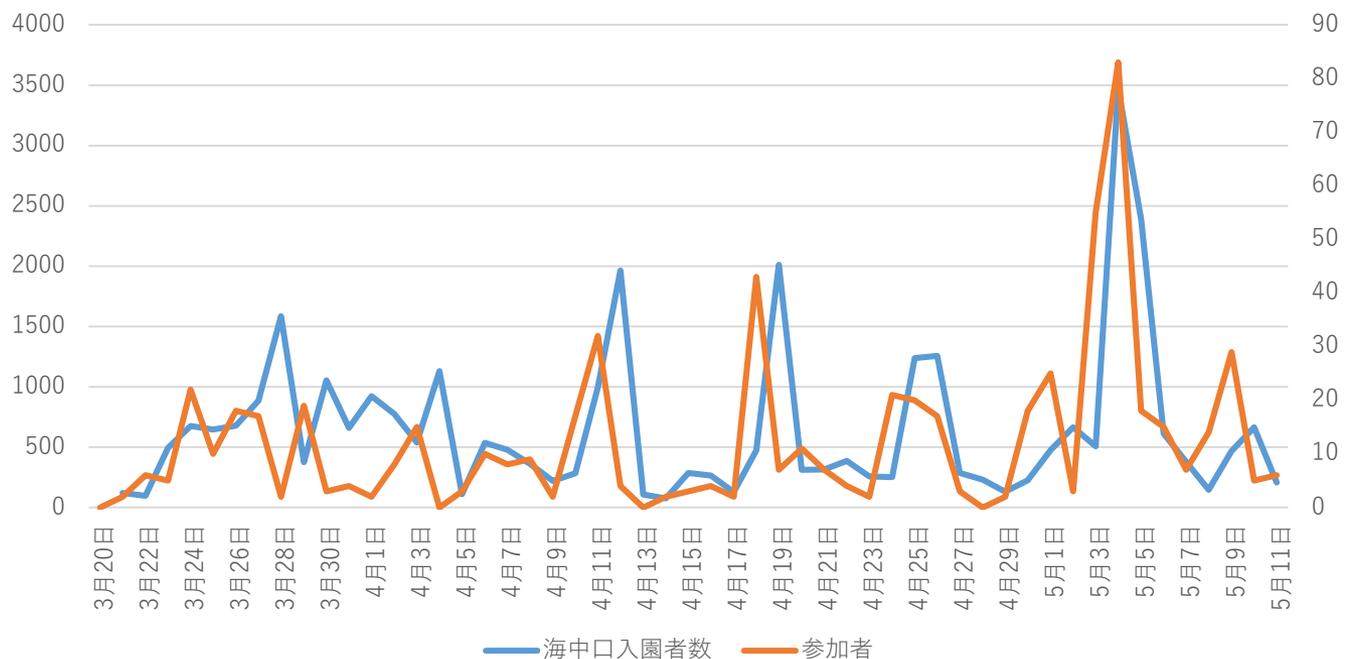
■ 実施結果

【概要】

- ・ 53日間合計で644名(1時間608名/ 3時間36名)の利用があった。
- ・ 海中口における電動キックボードの利用率は1.9%であった。(自転車利用率は27%)
- ・ 利用傾向は、自転車利用と同様に、入園者数に比例して利用が増えた。

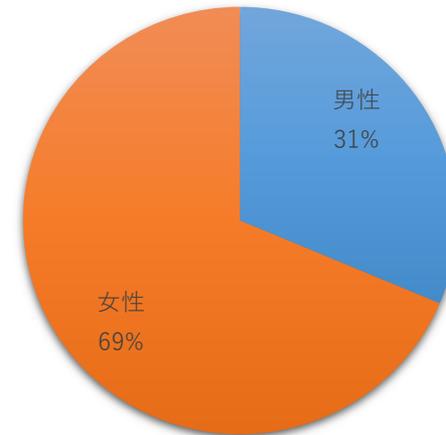
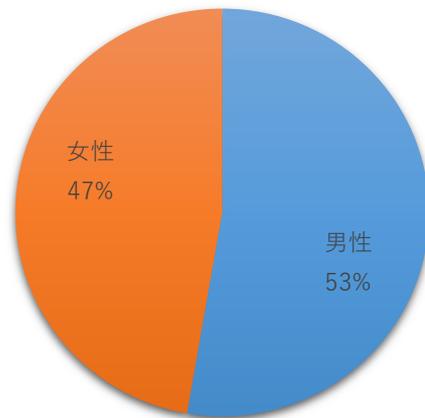
総入園者数	海中口入園者数	キックボード参加者数	利用率	海中口自転車	利用率
239,340	33,942	644	1.9%	9,267	27%

海中口入園者数と参加者数



【アンケート結果概要】 全回答者数：220人

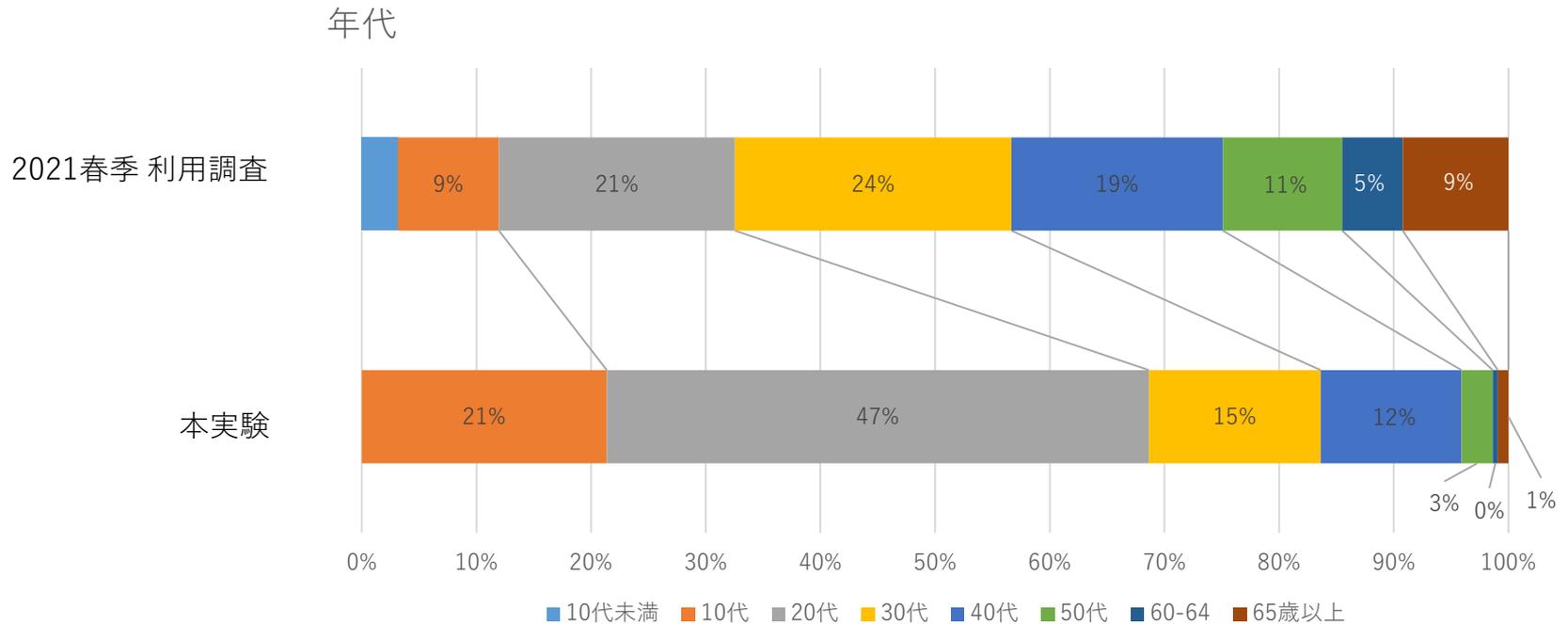
性別



2021春季 利用満足調査

男女ほぼ同数だった。
2021春季 利用満足調査の男女比と比べると、
男性が高い割合で利用した。

【アンケート結果概要】 全回答者数：220人



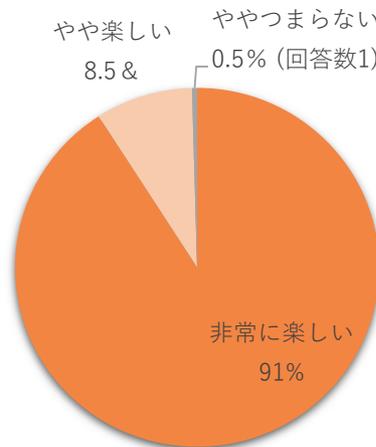
公園利用者の年代比率に比べて、
本実験では10代・20代の利用が高い結果となった。

■有効性の検証①

※有効性は公園の楽しみ方に付加価値を生むことと定義

「非常に楽しい」と「やや楽しい」あわせてほぼ100%だった。第1回より景色の高評価が多い。海側の爽快感を感じられた参加者が多かった。一方、花のエリアにいきたかった/全園に行ければ便利だった、というコメントも多かった。

楽しさ



【景色の高評価】

- のんびり景色が眺めるから
- 景色が綺麗でした
- 自転車より楽しだし周りを観れる程よい速度
- 森と海とを楽しめたから
- 操作しやすく、景色を楽しめた
- 海が見れたから
- 楽に海も森も回れて値打ちあり！
- 操作も簡単で速さも丁度良く、景色も良かった

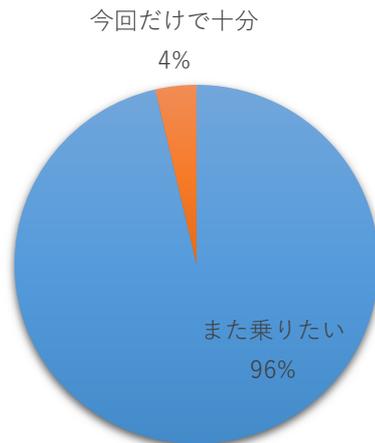
【乗車範囲拡大の要望】

- 乗れる範囲が広がるといいなと思いました
- 今回の園内コースであれば、2時間コースがあれば良かった。東だけでなく、全園内のコースも設定いただきたい。
- 花畑エリア、動物エリアなど名所に行きたい
- コースを伸ばして欲しい
- 乗るのは楽しいがコースがあんまりない

■有効性の検証②

「また乗りたい」と回答した割合は96%。
当公園における電動キックボードの今後の展開に高い期待をいただいた結果となった。

また乗りたいか



【今後の利用に関する意見】

- うみなかに常設してほしい
- また利用したい
- 非常に面白かった。
是非いろいろな場所でも乗ってみたい。
- 乗れる範囲が広がるといいなと思いました

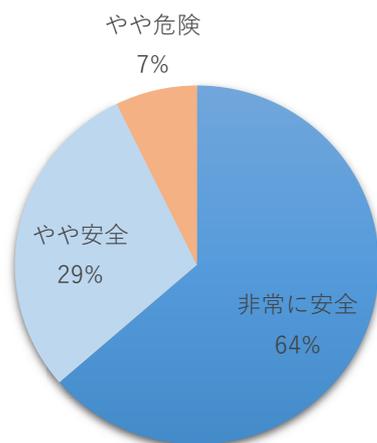
【参考：公道実証に関する意見】

- 街では、専用の道路がないと危ないと思います。
- サイクリングロードなら楽しいが、公道だと危険かもしれないと感じた。自転車用の車線がある場所だということ思う。
博多駅周辺などは危ないと思う。
- すごく快適で楽しい乗り物でしたが、公道で利用するには少しふらつきなどがあり危険もあるかなと思った。

■安全性の検証

「非常に安全」「やや安全」の回答割合をあわせて93%。高い割合で利用者が安全を感じる結果となった。速度制限の15kmが有効だったと考えられる。

安全性



【安全と感じた理由】

- ブレーキもアクセルも潤滑に踏めました
- 道が整備されているので
- スピードを落としてもバランスを保てる
- 走る速度程度しかスピードが出ないから
- 15キロまでしか出なかった為
- 青い線があったから
- 安定感があって乗りやすかった
- スピード制限があるから
- 慣れれば安全だと思います
- 乗る人を選ぶと思う

【アクセルの加速に関する意見】

- 減速加速が少し急な感覚がしたため
- 乗り始めのときに、アクセルを押しすぎたらスピードが一気に出てしまう。
- アクセルの遊びが少なく、急発進急停止な動きになる傾向があると感じたため。

■ 今後にもむけて

○ 第2回実験の所見

- ・ 第1回実験と同様に、園内移動手段としての付加価値を生む【有効性】と高い【安全性】は、エリア拡大しても実証できた。
- ・ 課題として、自転車に比べ利用者の料金抵抗が見られたため、**料金見直しと同時に収益モデルの構築**も検討。

○ 第3回実験の進捗状況

- ・ 第3回実証実験として、7/22～広範囲な設定にチャレンジ。
(8/6～9/30臨時休園の為、10/1～再スタート)
- ・ エリアを**サイクリングコース全域に拡大**し、全日型で実施
- ・ 現時点で（7/22～8/5・10/1～20の35日間）延べ利用462台。
利用率は第2回より上昇（第2回：1.9%・第3回：3.4%）

ワーケーションの取組状況

ワーケーションの取組状況

- 福岡型ワーケーション4泊5日（10/26～30）の実証事業最終日の活動として、10月29日（金）に海の中道海浜公園内にてフィールドワークとワークショップを開催
- 午前中は、公園内の主要施設を電動キックボードで巡り、ビーチクリーンと松林のツル取り活動体験
- 午後は、参加者によるワークショップ開催（3人×4チーム）
- モニター参加企業（東京）と地元商工会、福岡市、コンベンションビューロー、公園関係機関等が参加
- ワークショップでは、SDGsカードを用いたグループ学習を行った後、公園内で実施可能なアイデアの提案発表実施



フィールドワーク
（電動キックボードで園内巡り）



フィールドワーク
（ビーチクリーン、松林ツル取り）



ワークショップ状況



○4つの将来像の取組 フォローアップ様式（主体別）【海の中道管理センター】

: 全主体による取組

将来像の記載内容			個別施策	目標	2021年度取組	計画スケジュール（年度・予定）									
大項目	項目	今後の具体的取組み				2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
						(R3)	(R4)	(R5)	(R6)	(R7)	(R8)	(R9)	(R10)	(R11)	(R12)
将来像 2：海の中道の歴史、自然を後世に継承し、活かす公園															
海の中道固有の白砂青松の景観の保全、再生	マツ林育成	<ul style="list-style-type: none"> ●玄界灘側のD地区未供用区域のマツの植栽等を推進する。 ●樹幹注入等の松くい虫対策や植林箇所の密度管理等、マツ林の育成保全の取組を継続して実施する。 	若年マツの保護育成、間伐、松枯れの予防保全	<ul style="list-style-type: none"> ●市民共働による保全作業と計画的なマツクイムシ防除を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民共働による保全作業（年5回程度） ○計画的なマツクイムシ防除を実施（適宜） 										
	多様な主体との協働	<ul style="list-style-type: none"> ●公園内外のマツ林育成保全のため、マツ林の保全活動に取り組む自治体、市民団体等との協働、情報共有等を推進する。 ●江戸時代から続くクロマツ林の植林の取組みを紹介するガイドツアーやボランティアによる植栽、海岸清掃などを通じて市民と協働で白砂青松の景観を保全する。 	「白砂青松海浜公園サミット」の開催	<ul style="list-style-type: none"> ●2022年度（R4年度） 松林の保全活動に取り組む団体等呼びかけ開催。活動課題や良好事例の情報共有及び今後の活動にフィードバック 	<ul style="list-style-type: none"> ○松林の保全活動に取り組む団体等と情報交換 										
教育施設、環境学習フィールドとして活用	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ●環境教育の指導者を養成する講習会の開催など、人材育成の取組みを推進する。 	「環境教育指導者養成講習会」の開催	<ul style="list-style-type: none"> ●2020～2021年度（R2～3年度） 一般募集及び公園関係機関スタッフ対象に開催 ●2022年度（R4年度） 九州JAZA会員の動物園・水族館スタッフ対象に開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○一般募集及び公園関係機関スタッフ対象に開催（11月） 										
	環境学習	<ul style="list-style-type: none"> ●森の池、動物の森、マリンワールド海の中道など園内の多様な資源を活かすとともに、それらの連携により、多様で、学習効果の高いプログラムを提供する。 	新たな環境学習プログラムの実施（水辺の生き物観察体験、プロジェクトワイルドin森の池等）	<ul style="list-style-type: none"> ●2020年度（R2年度）～ 新規開園した「森の池」を活用したプログラム提供 ●2020年度（R2年度）～ マリンワールドと連携した保全活動の普及啓発イベント実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○「森の池」を活用したプログラム提供（10月） ○マリンワールドと連携した保全活動の普及啓発イベント（7月） 										
			「森の池市民協働運営協議会」による運営管理のコーディネート	<ul style="list-style-type: none"> ●2020年度（R2年度）～ 協議会参画団体の協力を得た「森の池」の利活用プログラムの提供 	<ul style="list-style-type: none"> ○協議会参画団体の協力を得た「森の池」の利活用プログラムの提供（10月） 										
将来像 3：心豊かで健康的なライフスタイルを支える公園															
健康増進、ストレス解消に繋がる場としての機能充実	健康増進	<ul style="list-style-type: none"> ●海浜部を活用したビーチラン、ビーチヨガなど、海の中道の自然が満喫できる魅力的な健康プログラムを実施する。 ●テニスコートやサンシャインプールなど、多くの既存施設の特性を生かした健康プログラムを充実させる。 ●志賀島・海の中道サイクルツーリズム協議会や福岡県・福岡市の健康や学習に関する施策と連携した取組を推進する。 	ビーチラン	<ul style="list-style-type: none"> ●2021年度（R3年度）～ 玄界灘の海岸線を活用したランイベントを開催 ●2021年度（R3年度）～ 夏季に各プログラムを実施 ●2020年度（R2年度）～ 地域民間事業者や福岡市と連携し自転車観光促進等を促進。渡船場より園外レンタサイクルを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○玄界灘の海岸線を活用したランイベントを開催（11月） ○プール営業中止 										
			サンシャインプールでの水泳教室、水中エクササイズ等プログラムの実施	<ul style="list-style-type: none"> ●2020年度（R2年度）～ 地域民間事業者や福岡市と連携し自転車観光促進等を促進。渡船場より園外レンタサイクルを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○施設内の消毒（特に人の手が触れる箇所） ○施設内の換気 ○消毒の設置 ○ポスター等での注意喚起 ○ログハウスに音響やモニターを設置し、憩いの場として利用者に開放する。また空調も増設し、環境を整える。 										
			「サイクルツーリズム」により公園と地域をつなぐ観光振興を主導	<ul style="list-style-type: none"> ●2020年度（R2年度）～ 春秋を主に季節売店の営業（花カフェ） ●テーブルセット等配置し休憩スペースを創出 ●春：桜とネモフィラの色彩が織り成す見所づくり ●秋：秋空と紅葉コキアによる花風景の演出 ●桜の園の魅力向上と老朽化した桜並木の再生を目標に、市民協働で補植を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○春秋を主に季節売店の営業（花カフェ） ○一人一花運動との連携イベント（4月） ○春：ネモフィラ ○秋：コスモス（コキアは虹・彩の花壇） 										
			市民協働による桜並木の創出	<ul style="list-style-type: none"> ●桜の園の魅力向上と老朽化した桜並木の再生を目標に、市民協働で補植を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民協働で補植を実施（3月） 										
	癒やし	<ul style="list-style-type: none"> ●感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できる空間を提供する。 ●花を愛でながら食事が楽しめるカフェの設置や、一人一花運動との連携などにより、花や緑が豊かな環境の中でリラックスでき、ストレスを解消できる場づくりをより一層推進する。 	花を愛でながら食事が楽しめる花カフェの設置	<ul style="list-style-type: none"> ●2020年度（R2年度）～ 春秋を主に季節売店の営業（花カフェ） ●テーブルセット等配置し休憩スペースを創出 ●春：桜とネモフィラの色彩が織り成す見所づくり ●秋：秋空と紅葉コキアによる花風景の演出 ●桜の園の魅力向上と老朽化した桜並木の再生を目標に、市民協働で補植を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○春秋を主に季節売店の営業（花カフェ） ○一人一花運動との連携イベント（4月） ○春：ネモフィラ ○秋：コスモス（コキアは虹・彩の花壇） 										
	癒やし	<ul style="list-style-type: none"> ●感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できる空間を提供する。 ●花を愛でながら食事が楽しめるカフェの設置や、一人一花運動との連携などにより、花や緑が豊かな環境の中でリラックスでき、ストレスを解消できる場づくりをより一層推進する。 	新しい生活様式の喚起、三密を防ぐハード・ソフトの対応		<ul style="list-style-type: none"> ○スマホを活用した非接触型のデジタルスタンプラリー（4～5月） ○花カフェ設置（春・秋） ○一人一花運動と連携した新規取組「みんなであつこうミニガーデン」（4～5月） 										

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式（主体別）【海の中道管理センター】

: 全主体による取組

将来像の記載内容			個別施策	目標	2021年度取組	計画スケジュール（年度・予定）											
大項目	項目	今後の具体的取組み				2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030		
						(R3)	(R4)	(R5)	(R6)	(R7)	(R8)	(R9)	(R10)	(R11)	(R12)		
将来像4：多様な人の多様な学び、活躍を支える公園																	
市民参加の場の充実	市民参加	●市民発案のプログラム、地域の方がインストラクター・講師等となったプログラムなど、市民が主体的に提供するプログラムを充実する。	市民とともに創り上げるプログラム（パークフィットネス）	●2021年度(R3年度)～地域のインストラクターが講師となりヨガ教室などを開催	地域インストラクター講師のヨガ教室（4月・10月）												
学びの場	学びの充実	●様々な施設、豊かな自然環境という強みを活かし、新しい働き方に対応した企業研修の場等としての公園利用を促進する。 ●食やアートなど、大人の関心の高い学習プログラムを充実する。	様々な施設、豊かな自然環境という強みを活かした企業研修の場としての公園利用の推進	●2021、2022年度（R3、4年度）に公園を活用した企業研修のメニューの開発、試行を実施	○福岡型ワーケーション推進に向けた「パートナー」登録（4月） ○東区歴史ガイドボランティアと連携したシニア主対象の「森の池歴史ガイドウォーキング」（9月⇒連携先都合により中止）												
ユニバーサルデザインの考えに基づく整備・管理運営	ユニバーサルデザイン	●ユニバーサルデザインによる園路や施設の整備、改修、本公園の災害時の避難場所としての機能を高めるための施設の耐震化を推進する。 ●障がいの有無にかかわらず、公園の楽しさを享受できるプログラムや施設の充実を図る。	すべての子どもと一緒に楽しめるインクルーシブ・プレイグラウンドの整備	●2022年度(R4年度)以降、カフェリニューアル後に収益の一部を還元し、大芝生広場レストハウス周辺に遊具を段階的に設置	カフェリニューアルにあわせ遊び場に関するワークショップを開催（10月）												
			大芝生広場レストハウス内売店みんなで創り・育む「インクルーシブ・カフェ」にリニューアル	●2021年度(R3年度) 設計 冬季に改修工事着工 ●2022年度(R4年度) 春季 リニューアルオープン	大芝生広場レストハウス内売店リニューアルにむけた設計・冬季の改修												
			障がいのある方も安心して楽しめる「動物ふれあい出張プログラム」の実施	●2021年度(R3年度)～ 大芝生広場レストハウス周辺にふれあいコーナーを設置し、動物スタッフが側面支援	カフェリニューアルにあわせふれあいコーナーを設置試行（3月）												
			動物の森において、障がいの者の心身の活性化に役立つケアプログラムを提供	●2020年度(R2年度)～ 青少年海の家の利用団体等を対象に開催	青少年海の家の利用団体等を対象に開催予定（6月・10月⇒連携先都合により中止） 福祉施設を対象に出張プログラム提供（11月）												
園内移動		●公園全体の交通ネットワークの再整理を行った上で、サイクリングコースやバスルートの再編、新たな休憩・交通の拠点の整備など必要な対策を実施する。 ●広い公園をスムーズに、楽しく移動できる新たなモビリティの導入などにより、園内の回遊性を高める。	広い公園を“スムーズに楽しく”移動できるサービス向上（デマンド交通社会実験、パーソナルモビリティ 等）	●2020～2021年度（R2～3年度） パーソナルモビリティ活用の実証実験、及び既存園内交通の課題抽出 ●2022年度(R4年度)～ 既存園内交通に代わるサービス導入	○パーソナルモビリティ活用の実証実験（4～5月、7～8月、10～11月） ○園内交通の課題抽出（下半期）												

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式(主体別)【マリンワールドPFI(株)】

：全主体による取組

将来像の記載内容			個別施策	目標	2021年度取組	2021年度進捗	計画スケジュール(年度・予定)																											
大項目	項目	今後の具体的な取組み					2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	2029(R11)	2030(R12)																		
将来像1:「オールうみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園																																		
多様な主体との連携、一体的な発信	公園の中の連携強化	●園内の各主体がそれぞれの強みを活かしたイベントや広報など連携した取組をより一層推進する。	各機関間での連携したイベント、広報の実施(ドルフィンセミナー、海の冒険団、カッター教室 等)	●連携メニューの一層の充実	●海の冒険団	→2021年度コロナ感染症拡大により中止。																												
将来像2:海の中道の歴史、自然を後世に継承し、活かす公園																																		
教育施設、環境学習フィールドとして活用	環境学習	●森の池、動物の森、マリンワールド海の中道など園内の多様な資源を活かすとともに、それらの連携により、多様で、学習効果の高いプログラムを提供する。	環境共生の森での絶滅危惧種の保全、外来種の駆除	●光と風の広場「環境共生の森」のため池を利用し、希少淡水魚ニッポンバラタナゴ域外保全活動を行う。また一般市民が参加できる環境学習の場として定着させる。 2021年度(R3年度) 孵化稚魚のため池放流 2022年度(R4年度) 成長観察 2023年度(R5年度) ため池での自然産卵 ●希少淡水魚の生活環境多様化のため、また環境学習の実践場として「水路」「水田」の整備	【環境共生の森】 ・いのちの池:生質内粗放飼育ニッポンバラタナゴの管理・ヌマガイを母貝として使用し繁殖させる。 ・ヌマガイ池(仮称):移植したヌマガイの自然繁殖環境を整備する。 ・ニッポンバラタナゴ稚魚池(仮称):池の環境整備と繁殖したニッポンバラタナゴ稚魚の粗放飼育試験。 ・ピオトープ:2021年に整備したピオトープへ水生植物移植。 【水田・水路】 水田の稲作・水路整備により、多様な環境を創造。 【いごいの森:北エリア湿地】 ・2021年3月保全圃い内で、産卵確認。幼体を育成し、飼育数を増加させる。 ・保全圃いの増設。 【いごいの森:南エリア】 ・水生昆虫定期調査	→ヌマガイ稚貝はまだ、確認できず9個体追加搬入(計12個体) →稚魚数が少ないため、移植は来年度とする。 →2021年に整備したピオトープ3面(4×4m)に、移植したミスオオバコ・ナンゴクデンジソウは順調に増殖。 →水田:稲作順調に育ち収穫 →水路:水漏れがあり、保水できず。 →15個体産卵し、968個体孵化した。 →7月、保全圃い2基を設置(計200個体を移植) →水生昆虫定期調査継続	孵化稚魚のため池放流 成長観察 移植個体の自然産卵 保全活動の継続・定期的な観察会 水田増設 参加体験型の環境学習場として活用(定期的な観察会の実施) 水路へ生物移植 参加体験型の環境学習場として活用(定期的な観察会の実施) 移植個体の自然産卵 保全圃いの増設 繁殖個体を湿地へ放流 保全活動の継続・定期的な観察会																											
将来像3:心豊かで健康的なライフスタイルを支える公園																																		
健康増進、ストレス解消に繋がる場としての機能充実	癒やし	●感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できる空間を提供する。 ●花を愛でながら食事が楽しめるカフェの設置や、一人一花運動との連携などにより、花や緑が豊かな環境の中でリラックスでき、ストレスを解消できる場づくりをより一層推進する。	新しい生活様式の喚起、三密を防ぐハード・ソフトの対応	●来館者が安全・安心して利用できる施設環境を提供する。	●HP・館内表示による来館者への協力要請。 ●入館者の検温、手指消毒・施設内の換気、消毒。	→HP・館内表示による来館者への協力要請を継続 →入館時の検温・手指消毒・施設内の換気・消毒を継続。																												
将来像4:多様な人の多様な学び、活躍を支える公園																																		
学びの場	学びの充実	●様々な施設、豊かな自然環境という強みを活かし、新しい働き方に対応した企業研修の場等としての公園利用を促進する。 ●食やアートなど、大人の関心の高い学習プログラムを充実する。	自然保護への理解を深める自然への窓口となる施設運営	●展示水槽・展示物を通して自然保護への理解を深める。 2021~2023年(R3~5年) 小笠原シロワニ調査(母島) 2023年度(R5年度) 衛星発信機調査(母島) 海浜公園光と風の広場 アマモ移植 アマモ場の創生 海洋動物の繁殖 ●野外観察会の実施(毎年2回実施)	【小笠原シロワニ調査】 ・母島・父島の年次調査(12月) 【海浜公園光と風の広場 アマモ移植】 ・11月アマモ移植 【海洋動物の繁殖】 ・カマイルカ繁殖計画 【野外観察会】 管理センターと協働しての観察会 ・7/25(日)水辺のいきもの観察会 ・7/31(土)カスミサシヨウウオ観察会 地域の環境を利用した磯の観察会 ・4/10(土)、5/9(日)勝馬海岸 【学習プログラム】 ・ワークシート、講話等提供	→7月シロワニ個体識別カタログをHPで公開。今年度も現地調査予定。 →11月アマモ移植予定 →カマイルカ2頭妊娠 →管理センターと協働で、予定どおり実施。 →4/10(土)・5/9(土) 予定どおり実施。	小笠原シロワニ調査(母島) 衛星発信機調査(母島) アマモ移植、アマモ場の創生 海洋動物の繁殖 野外観察会の実施																											
ユニバーサルデザインの考えに基づく整備・管理運営	ユニバーサルデザイン	●ユニバーサルデザインによる園路や施設の整備、改修、本公園の災害時の避難場所としての機能を高めるための施設の耐震化を推進する。 ●障がいの有無にかかわらず、公園の楽しさを享受できるプログラムや施設の充実を図る。	ソフト面におけるユニバーサルデザイン推進(スタッフへのコミュニケーション・接客トレーニング、多言語リーフレット・デジタルサイネージ設置 等)	●スタッフ接客マニュアル作成、チェック及びトレーニングの継続 ●多言語生物解説の推進 ●毎年2校実施	【接客】策定した接客マニュアルに則ったチェック及びトレーニングの継続 【多言語生物解説】リンネレンズの継続 リンネレンズガイドの英語翻訳 【移動水族館教室】 ・11月 福岡市立 福岡中央特別支援学校 福岡県立 川崎特別支援学校	→スタッフ接客マニュアルに沿ったチェック実施 →継続 →作業中 予定 →11/9福岡市立 福岡中央特別支援学校 →11/17福岡県立 川崎特別支援学校																												

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式（主体別）【（株）海の中道リゾート（ホテル）】

：全主体による取組

将来像の記載内容			個別施策	目標	○年度取組	計画スケジュール（年度・予定）																			
大項目	項目	今後の具体的取組み				2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)										
将来像1：「オールうみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園																									
多様な主体との連携、一体的な発信	公園の中の連携強化	●園内の各主体がそれぞれの強みを活かしたイベントや広報など連携した取組をより一層推進する。	各機関の間での連携したイベント、広報の実施（ドルフィンセミナー、海の冒険団、カッター教室 等）	●連携メニューの一層の充実	→ドルフィンセミナー 実施中																				
将来像2：海の中道の歴史、自然を後世に継承し、活かす公園																									
地域活性化	地域活性化	地元と連携し、収穫体験、釣り体験等のアクティビティ、志賀島と連携したサイクルツーリズムなど、公園を起点とした地域観光への誘導を推進する。 地域との連携によるイベントの開催などにより、公園と地域の集客施設等との相互利用を促進する。	地域の施設や地元業者と連携する。（地元陶芸、野菜収穫＆ランチ）	●2021年度（R3年度）春頃から西戸崎の陶芸工房と連携した陶芸教室を開催 ●志賀島の契約農園で野菜等を収穫し、その食材を使ったランチを提供するプランを開始	→2021年5月～→プラン化は行っているが実施無し。 →実施中																				
将来像3：心豊かで健康的なライフスタイルを支える公園																									
健康増進、ストレス解消に繋がる場としての機能充実	健康増進	●海浜部を活用したビーチラン、ビーチヨガなど、海の中道の自然が満喫できる魅力的な健康プログラムを実施する。 ●テニスコートやサンシャインプールなど、多くの既存施設の特性を生かした健康プログラムを充実させる。 ●志賀島・海の中道サイクルツーリズム協議会や福岡県・福岡市の健康や学習に関する施策と連携した取組を推進する。	新たな（健康）レクリエーションの導入（サブネス）	●2021年度(R3年度)春頃からサブネスを実施	→2021年9月～→緊急事態宣言などの関係にて2022年度での計画変更。																				
	癒やし	●感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できる空間を提供する。 ●花を愛でながら食事が楽しめるカフェの設置や、一人一花運動との連携などにより、花や緑が豊かな環境の中でリラックスでき、ストレスを解消できる場づくりをより一層推進する。	新しい生活様式の喚起、三密を防ぐハード・ソフトの対応		→各機関と連携し、感染症対策の徹底を図る																				

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式（主体別）【青少年海の家】

：全主体による取組

将来像の記載内容			個別施策	目標	2021年度取組	計画スケジュール（年度・予定）																		
大項目	項目	今後の具体的取組み				2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)									
将来像 1：「オールらみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園																								
多様な主体との連携、一体的な発信	公園の中の連携強化	●園内の各主体がそれぞれの強みを活かしたイベントや広報など連携した取組をより一層推進する。	各機関間での連携したイベント、広報の実施（それいけ海の冒険団、カッター教室等）	●連携メニューの一層の充実 ●新たな機関との連携開発 ●SNS（FB・Instagram）を活用した広報促進	●公園主催イベント アウトドアパークのキャンプ体験の計画（コロナにより中止） ●らみなかたびサイト活用 ●マリナーとの新たな連携企画 カヌー・BBQ・クルージング体験																			
教育施設、環境学習フィールドとして活用	環境学習	●森の池、動物の森、マリンワールド海の中道など園内の多様な資源を活かすとともに、それらの連携により、多様で、学習効果の高いプログラムを提供する。	自然観察活動（動植物観察、貝殻採取、ビーチクリーンアップ、天体観察等）	●既存の活動プログラムの見直し・リニューアルを図る ●自然教室や主催事業における環境学習の推進	●環境局との連携によるラプアースクリーン活動やSDGs取組の推進 ●「環境学習プログラム」への参加 環境局との連携による環境教育の促進																			
将来像 3：心豊かで健康的なライフスタイルを支える公園																								
健康増進、ストレス解消に繋がる場としての機能充実	癒やし	●感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できる空間を提供する。 ●花を愛でながら食事が楽しめるカフェの設置や、一人一花運動との連携などにより、花や緑が豊かな環境の中でリラックスでき、ストレスを解消できる場づくりをより一層推進する。	新しい生活様式の喚起、三密を防ぐハード・ソフトの対応。	●感染症対策の見直し ●魅力向上アイデアの申請促進及び実現化	●感染症対策の見直しと徹底 マニュアル作成 HPへの掲載 ●流木アートや漂流ゴミを活用したジャンクアートの制作。施設の充実につながる ●パークテレーリング・ウォークラリー等実施コースの再確認 健康増進プログラム																			
将来像 4：多様な人の多様な学び、活躍を支える公園																								
学びの場	学びの充実	●様々な施設、豊かな自然環境という強みを活かし、新しい働き方に対応した企業研修の場等としての公園利用を促進する。 ●食やアートなど、大人の関心の高い学習プログラムを充実する。	野外活動機会の積極提供 様々な機会を通して、子どもたちの教育に関わる。	●他の機関とのコラボレーションによる、活動プログラムの実施や出張やブース出展などの提供機会を充実	●「夢授業」への参加 小中学校におけるキャリア教育の提供 ●企業向け利用促進チラシの作成 新人社員研修などでの活用																			

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式（主体別）【海の中道パーク・ツーリズム共同事業体】

：全主体による取組

将来像の記載内容			個別施策	目標	2021年度取組	計画スケジュール（年度・予定）																			
大項目	項目	今後の具体的な取組み				2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)										
将来像 1：「オールうみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園																									
多様な主体との連携、一体的な発信	公園の中の連携強化	●園内の各主体がそれぞれの強みを活かしたイベントや広報など連携した取組をより一層推進する。	各機関の間での連携したイベント、広報の実施（ドルフィンセミナー、海の冒険団、カッター教室等）	●連携メニューの一層の充実	本年度末のオープンに向けて各機関と連携策を協議予定																				
	海の中道ならではの多様なレクリエーションの提供	●既にファミリー層の利用者が多いC地区はその魅力をより強化、Park-PFI事業が開始されるB地区は大人向けエリアとして整備・管理運営を行うなど、利用状況、特徴等にに応じた各エリアの差別化を一層推進し、多様な層へ多様な楽しみ方を提供する。 ●日本と世界を繋ぐ、公園内外を繋ぐ、人と人とを繋ぐ「繋がりのエントランス」として海の中道駅口をリニューアルする。	Park-PFI事業の開始、運営（球体テント、立体アスレチック施設の整備）	●2022年（令和4年）3月グランドオープン	2022年3月オープンに向けて運営計画の立案、施設の施工を実施（2021年8月着工）																				
	海の魅力の発揮	●穏やかな海に面した砂浜が広がるB地区未供用区域を、海と触れ合うことができる海浜レクリエーション空間として整備する。 ●博多湾、玄界灘海浜部での海や砂浜を活用したアクティビティを導入する（SUP、カヤック、ホースライディング等）。	博多湾、玄界灘海浜部でのアクティビティ導入（SUP、カヤック、ホースライディング等）	●新たなアクティビティの導入でこれまで利用の少なかった園内海浜部を活用し、公園の魅力向上に寄与する。	各アクティビティ事業者と詳細協議を実施中																				
食の魅力の充実	●地産地消、食育などのテーマ性のある食の提供、地域と連携したマルシェの開催など海の中道ならではの飲食サービスを充実させる。	地域と連携したマルシェ等のイベントの開催	●定期的に地域イベントを開催することで海中地域の魅力を発信する。	地元事業者と詳細を協議中																					
		収穫体験や食育、地産地消等の要素を加え新たな体験型アクティビティとしてのBBQサービス提供	●周辺地域と連携し、地場産品を利用した飲食・体験価値を提供する。	地元事業者と詳細を協議中																					
将来像 2：海の中道の歴史、自然を後世に継承し、活かす公園																									
教育施設、環境学習フィールドとして活用	環境学習	●森の池、動物の森、マリンワールド海の中道など園内の多様な資源を活かすとともに、それらの連携により、多様で、学習効果の高いプログラムを提供する。	共生の森・森の池での自然観察	観察プログラムを通じ、海中地域や海浜公園特有の自然環境への理解を深める。	自然観察プログラムの詳細を検討予定																				
将来像 3：心豊かで健康的なライフスタイルを支える公園																									
健康増進、ストレス解消に繋がる場としての機能充実	健康増進	●海浜部を活用したビーチラン、ビーチヨガなど、海の中道の自然が満喫できる魅力的な健康プログラムを実施する。 ●テニスコートやサンシャインプールなど、多くの既存施設の特性を生かした健康プログラムを充実させる。 ●志賀島・海の中道サイクルツーリズム協議会や福岡県・福岡市の健康や学習に関する施策と連携した取組を推進する。	パノラマ広場でのヨガ等健康アクティビティの実施	●通常と異なる環境下での活動によりモチベーション維持し、継続的な運動を促す。	各種アクティビティの検討、実施事業者と詳細を協議中																				
	癒やし	●感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できる空間を提供する。 ●花を愛でながら食事が楽しめるカフェの設置や、一人一花運動との連携などにより、花や緑が豊かな環境の中でリラックスでき、ストレスを解消できる場づくりをより一層推進する。	レストラン&カフェ・バーの整備	●2022年（令和4年）3月グランドオープン	2022年3月オープンに向けて事業計画の立案、施設の施工を実施（2021年8月着工）																				

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式（主体別）【海の中道パーク・ツーリズム共同事業体】

: 全主体による取組

将来像の記載内容			個別施策	目標	2021年度取組	計画スケジュール（年度・予定）									
大項目	項目	今後の具体的取組み				2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
						(R3)	(R4)	(R5)	(R6)	(R7)	(R8)	(R9)	(R10)	(R11)	(R12)
健康増進、ストレス解消に繋がる場としての機能充実	癒やし	<ul style="list-style-type: none"> ●感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できる空間を提供する。 ●花を愛でながら食事が楽しめるカフェの設置や、一人一花運動との連携などにより、花や緑が豊かな環境の中でリラックスでき、ストレスを解消できる場づくりをより一層推進する。 	新しい生活様式の喚起、三密を防ぐハード・ソフトの対応		感染症対策の検討、ランドスケープの検討・施工を実施中										
将来像4：多様な人の多様な学び、活躍を支える公園															
市民参加の場の充実	市民参加	<ul style="list-style-type: none"> ●市民発案のプログラム、地域の方がインストラクター・講師等となったプログラムなど、市民が主体的に提供するプログラムを充実する。 	地元講師を招いたワークショップやイベントの企画、地域住民企画のイベント等受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> ●地域住民や地元団体の活動や発表の場、機会を創出し、公園利用を促進する。 	地元団体等と詳細協議予定										
学びの場	学びの充実	<ul style="list-style-type: none"> ●様々な施設、豊かな自然環境という強みを活かし、新しい働き方に対応した企業研修の場等としての公園利用を促進する。 ●食やアートなど、大人の関心の高い学習プログラムを充実する。 	遊びながら学べるアクティビティの導入（アクティブラーニングを意識したプログラム開発他）	<ul style="list-style-type: none"> ●アスレチックタワーの整備 ●段階的なプログラムの企画開発、実施 	2022年3月オープンに向けてアスレチックタワーの施工、学習プログラムの詳細検討を実施中										

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式（主体別）【国土交通省】

: 全主体による取組

将来像の記載内容			個別施策	目標	2021年度取組	計画スケジュール（年度・予定）																		
大項目	項目	今後の具体的取組み				2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)									
将来像 1：「オールうみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園																								
多様な主体との連携、一体的な発信	公園の中の連携強化	●本公園の将来像の実現に向けて「国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会」で各主体の連携を強化し、継続的なフォローアップを行う。	関係主体の協議の場として「国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会」を運営	●協議会を年2回開催するとともに、フォローアップのための園内関係機関の会議を月1回開催	・年2回開催（6月、11月） ・園内関係機関の会議は概ね月1回開催（緊急事態宣言中は未開催）																			
	公園の中の連携強化	●園内の各主体がそれぞれの強みを活かしたイベントや広報など連携した取組をより一層推進する。	各機関の間での連携したイベント、広報の実施（ドルフィンセレモニー、海の冒険団、カッター教室 等）	●連携メニューの一層の充実	公園内の各機関の企画・広報担当者をメンバーとする「利用促進・サービス向上部会」で具体的な連携の調整等を実施																			
海の中道ならではの多様なレクリエーションの提供	多様なニーズへの対応	●既にファミリー層の利用者が多いC地区はその魅力をより強化、Park-PFI事業が開始されるB地区は大人向けエリアとして整備・管理運営を行うなど、利用状況、特徴等に応じた各エリアの差別化を一層推進し、多様な層へ多様な楽しみ方を提供する。 ●日本と世界を繋ぐ、公園内外を繋ぐ、人と人とを繋ぐ「繋がりのエントランス」として海の中道駅口をリニューアルする。	多様なニーズの受け皿となるよう園内全体のゾーニングの再整理（ファミリー層向けエリア、大人向けエリア、歩行者空間 等）	●2021年度（R3年度）にゾーニングを再整理し、そのゾーニングに基づき計画的に整備	将来像の各エリアの特性に応じた整備計画を検討中																			
			日本と世界を繋ぐ、公園内外を繋ぐ、人と人とを繋ぐ「繋がりのエントランス」として海の中道駅口をリニューアル 施設の老朽化、陳腐化等を踏まえた遊具の適切な更新と魅力向上	●2021年度（R3年度）から検討、設計に着手し、2023年度（R5年度）までに再整備完了	今年度中に設計を行い、来年度から整備予定	●2021年度（R3年度）：ちびっこ広場の遊具更新 ●2022年度（R4年度）：ユニバーサルデザイン遊具の更新	ちびっこ広場の遊具を今年度更新中																	
海の魅力の発揮	●穏やかな海に面した砂浜が広がるB地区未供用区域を、海と触れ合うことができる海浜レクリエーション空間として整備する。 ●博多湾、玄界灘海浜部での海や砂浜を活用したアクティビティを導入する（SUP、カヤック、ホースライディング等）。	B地区未供用区域の整備（親水空間としての活用）	●2021年度（R3年度）～2025年度（R7年度）：B地区の動植物等の環境調査、計画、設計 ●2026年度（R8年度）以降整備着手、2030年度（R12年度）頃供用	B地区未供用区域の環境調査を実施中																				
食の魅力の充実	●地産地消、食育などのテーマ性のある食の提供、地域と連携したマルシェの開催など海の中道ならではの飲食サービスを充実させる。	園内施設の集約再編にあわせた新たな飲食施設の整備	●2024～2025年度（R6～R7年度）に園内のレストハウス等を集約再編し、新たな飲食施設を整備	施設の集約再編に向けた計画を今年度検討中																				
将来像 2：海の中道の歴史、自然を後世に継承し、活かす公園																								
海の中道固有の白砂青松の景観の保全、再生	マツ林育成	●玄界灘側のD地区未供用区域のマツの植栽等を推進する。 ●樹幹注入等の松くい虫対策や植林箇所の密度管理等、マツ林の育成保全の取組を継続して実施する。	D地区の未供用区域の整備	●2030年度（R12年度）頃に供用できるよう、継続的にマツの植栽等を実施	D地区未供用区域のマツ植林に向けた造成を実施中																			
			園内の松林を保全・育成するための樹幹注入や薬剤散布等の松くい虫対策、間伐	●園内全域で健全なマツ林を維持・継承	樹幹注入や薬剤散布等の松くい虫対策を継続的に実施																			

○4つの将来像の取組 フォローアップ様式（主体別）【国土交通省】

: 全主体による取組

将来像の記載内容			個別施策	目標	2021年度取組	計画スケジュール（年度・予定）									
大項目	項目	今後の具体的取組み				2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
						(R3)	(R4)	(R5)	(R6)	(R7)	(R8)	(R9)	(R10)	(R11)	(R12)
将来像3：心豊かで健康的なライフスタイルを支える公園															
スポーツ・レクリエーションの場としての機能充実	運動	●既に市民の多様なスポーツの場として親しまれている雁の巣レクリエーションセンターの区域を、福岡市が管理する現行の形を基本として国営公園として供用するとともに、他の公園区域との連携を強化する ●園内の園路の改修等により、サイクリング専用コースやジョギングコースなどの運動ができるコースの設定を行う。	雁の巣レクリエーションセンターの国営公園区域としての供用	●雁の巣レクリエーションセンターと他の区域との連携方策、整備内容や運営方法等の調整	福岡市と継続的に情報共有を進める予定										
健康増進、ストレス解消に繋がる場としての機能充実	健康増進	●海浜部を活用したビーチラン、ビーチヨガなど、海の中道の自然が満喫できる魅力的な健康プログラムを実施する。 ●テニスコートやサンシャインプールなど、多くの既存施設の特性を生かした健康プログラムを充実させる。 ●志賀島・海の中道サイクルツーリズム協議会や福岡県・福岡市の健康や学習に関する施策と連携した取組を推進する。	健康づくりのためのサイクリング専用コースの設置	●2023年度(R5年度)までにサイクリングコースを再編・改修して専用コースを整備	サイクリングコースの改修に向けた設計を実施中										
	癒やし	●感染症対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できる空間を提供する。 ●花を愛でながら食事が楽しめるカフェの設置や、一人一花運動との連携などにより、花や緑が豊かな環境の中でリラックスでき、ストレスを解消できる場づくりをより一層推進する。	新しい生活様式の喚起、三密を防ぐハード・ソフトの対応		・各機関と連携し、感染症対策の徹底を図る ・海の中道駅のリニューアルにあわせた花修景の強化と飲食施設設置の設置に向けた検討を実施中										
将来像4：多様な人の多様な学び、活躍を支える公園															
学びの場	学びの充実	●様々な施設、豊かな自然環境という強みを活かし、新しい働き方に対応した企業研修の場等としての公園利用を促進する。 ●食やアートなど、大人の関心の高い学習プログラムを充実する。	様々な施設、豊かな自然環境という強みを活かした企業研修の場としての公園利用の推進	●2021、2022年度（R3、4年度）に公園を活用した企業研修のメニューの開発、試行を実施	福岡市のワーケーション施策と連携した取組を推進中										
ユニバーサルデザインの考えに基づく整備・管理運営	ユニバーサルデザイン	●ユニバーサルデザインによる園路や施設の整備、改修、本公園の災害時の避難場所としての機能を高めるための施設の耐震化を推進する。 ●障がいの有無にかかわらず、公園の楽しさを享受できるプログラムや施設の充実を図る。	ユニバーサルデザインによる施設整備、改修、避難地としての機能を高める施設の耐震化	●施設更新にあわせた園路、トイレ等のユニバーサルデザイン化、耐震化の推進、充実	・園路等の改修を実施中 ・トイレのユニバーサルデザイン化を推進予定										
	園内移動	●公園全体の交通ネットワークの再整理を行った上で、サイクリングコースやバスルートの再編、新たな休憩・交通の拠点の整備など必要な対策を実施する。 ●広い公園をスムーズに、楽しく移動できる新たなモビリティの導入などにより、園内の回遊性を高める。	公園全体の交通ネットワークの将来形の検討とその検討結果に基づく園路等の改修、再整備 C地区の利用が集中している場所にスクラップ&ビルドにより新たな交通・休憩の拠点を整備	●2021年度(R3年度)：全体計画の整理 ●2022年度(R4年度)以降：優先順位に応じて順次改修 ●2024～2025年度(R6～R7年度)に園内のレストハウス等を集約再編し、新たな交通・休憩の拠点を整備	園内交通の見直しに向けた計画を整理中										
					施設集約再編、園内交通の見直しに向けた計画を整理中										